

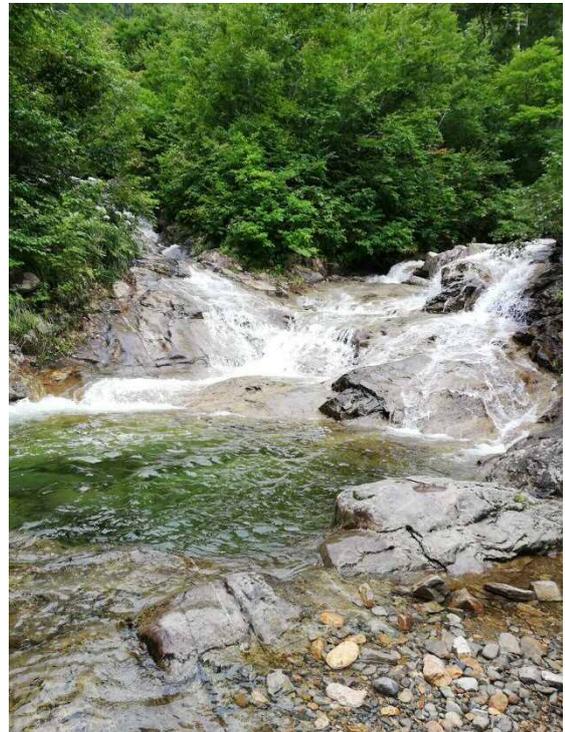
ナルミズ沢

2019/14(土)～15(日)

メンバー：磯部茂明 (L・記)、ヤマメ、杉浦昌子

今年の春山、白毛門からの稜線上で、この沢の詰めであるカール状の大雪原を見た。“美しすぎる・・・。” “ここが草原になったらどんなにすばらしいだろう！”
そしてなんとか9月にチャンス到来。下山口とした宝川温泉奥に電動アシスト自転車をデポ、東黒沢から入り、朝日岳経由で再び沢に降りぐると周遊する計画を立てた。

宝川温泉からロープで林道が通行止めになっていたが、掛けてあるだけで簡単に外せた。轍もあり自己責任の下2km弱未舗装の林道をつめていくと、いきなり広大な草原があり、しっかり他にも車が入っていた。ただでさえ長～い下山路、ここまで来て良かった。



<ここまで入れた！>

<右が東黒沢。おもしろかった～>

木陰に自転車をデポし、白毛門登山口の駐車場へ。東黒沢にはいきなり入渓するのでは無く、登山路をしばらく辿った後、しっかりした右手の踏み跡へ分け入り、まずは白毛門沢に入る。斜度の強い沢だが、直に二股から右の東黒沢に入る。これがまたちょっと地形的にワイルドで楽しめた。

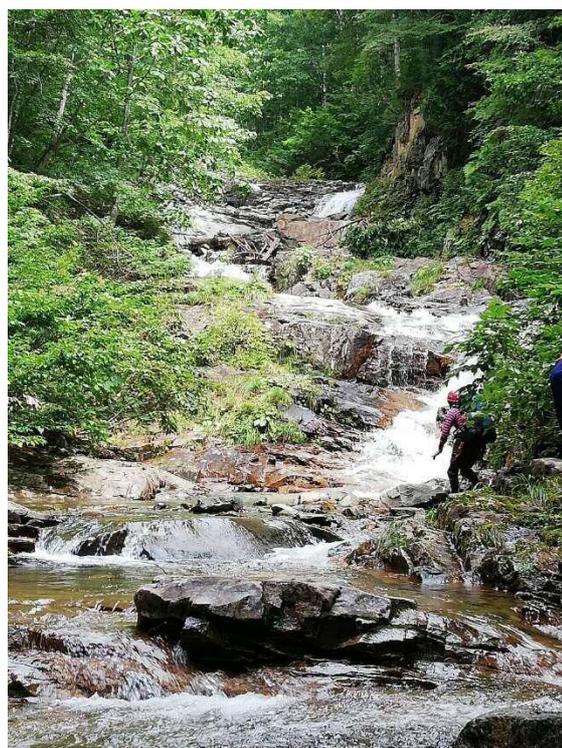
“ここはどこだ？”と読図の勉強にはもってこいの細かく周囲が見えにくい地形で、“俺らは最後までGPSは使わないぞ！”、と先日ここを遡行した仲間の山行を意識する。しかし小目的は達成したものの、結局時間を掛けすぎ、ナルミズ沢の広河原に降り立ったときには時既に3時、しかも大人気ルートらしくあちこちの幕営適地は占領されていた。

これではメインの大石沢出会い前の草原幕営地はもっと一杯だろうと、ここで泊まることに。この時点で大目的である草原のツメからの周遊は断念、自分のツメの甘さを痛感。

幸い先着の遡行者から、少しナルミズ沢下流側の左岸の奥まったところを紹介してもらい、人の目を気にせずに沢の夜を楽しむことができた。



<東黒沢1：ナメがとても多く美しい>



<東黒沢2：斜度は強く、変化に富む>

<沢からは見えない隠れ適地 →>



<↑ラストのコルは広いヤブの中>

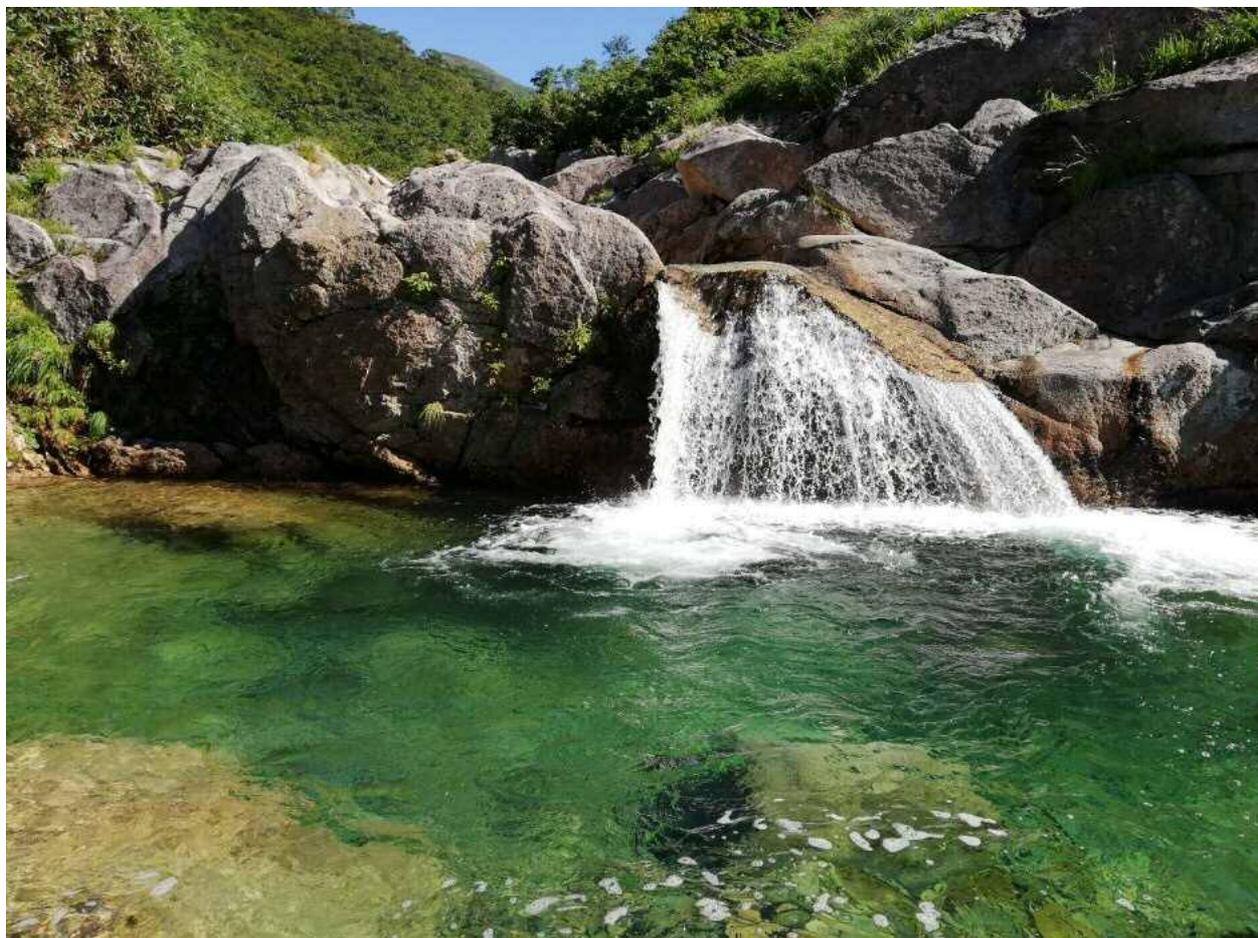
前日に雨が降ったらしく、濡れた流木でのたき火は大変！でも楽しい！！



翌日の目的は、“大草原を見て帰ろう！”で、すでに大周遊の緊張感は無。ナルミズ沢は両岸が開けていて、沢にしては空が広い。明るく開放感いっぱい緑の草原をめざす。

クライミングの要素も少ないため、川に近い沢。天気も良く日射しを浴びれば、“水がおいらを呼んでいる！”で、遊びまくり、滝の飛び込みではく安全性を確認し、ロープも出して>みんなで遊んだ。

結局遊びすぎて、大草原に近づくことすらできなかったが、大満足だった。また来るか！で、登った沢を下ることにした。



水が名残惜しく、自分は水線通しで下っていたが、こんな緊張感が無いときに、アクシデントはやってくるものだ。膝上くらいの水深でバシャバシャ下っていたら、右足を岩に挟んで変な角度でひねりながら転倒、沢で初めて捻挫してしまった。直後はたいしたことないと高をくくっていたが、小一時間も歩くと、痛みが出てきた。

テーピングしてこれ以上ひねらないよう処置をして、ペースダウンで長い下山路を5時間以上歩き、2人には迷惑を掛けてしまった。ごめんなさい。

自転車での車回収も自分はできず、結局浜松に帰ったのは3時過ぎと、いろんな意味で思い出深い山行となった。

*タイムは参考にならず、略。

<引き返し地点：草原はあの向こうか～>



<活躍はしましたが・・・。>

